



URAWA RED DIAMONDS LADIES OFFICIAL MATCH DAY INFORMATION

11

SEASON 13



30 FW 安藤 梢



2017 プレナスなでしこリーグカップ 1部 グループB 第4節

vs マイナビベガルタ仙台レディース

浦和駒場スタジアム / 6月17日 (土) 14:00 KICK OFF

interview

30 FW 安藤 梢

浦和レッズレディースでタイトルを取るために帰ってきた

ドイツで夢を叶えて

ドイツから帰ってきて、初めての試合はどうでしたか。
「1試合みんなと戦って、よりチームに入ったような気がします。練習や練習試合では味わえない、みんなの雰囲気を知ることができました」

久しぶりの日本の気候やピッチはどうでしたか。

「暑さや湿気を恐れていましたが、実際にやってみると、集中していたのもあって、あまり気にならなかったです。それよりも、ドイツの芝は長かったので、芝の違いが気になりました。あと、ドイツでは少しぐらいのあたりでは審判は笛を吹かないので、そういう感覚の違いを感じました」

ドイツでの夢への挑戦はどうでしたか。

「ドイツに行った最初のころは、想像していた以上に大変でした。レッズレディースでプレーしていたときは、自分のところに、自分の好きなタイミングでパスがきていたのが、ドイツに行ったら、初めはパスももらえなかった。そんな中で、自分が徐々にみん

なに認められてきて、結果を残していくというのが楽しくもありました」

どうやって信頼を得ていったのですか。

「一緒に2トップを組んでいた選手は、パスをくれるタイプの選手ではなかったので、味方のパスを奪って決めるというぐらいの気持ちでプレーしていました。そこで点を取ったら、みんなが声をかけてくれて、認めてくれるようになりました。それからは、結果にこだわってプレーするようになりました」

FIFAワールドカップ優勝で評価は変わりましたか。

「ドイツはサッカーの国なので、日本がワールドカップで優勝したときは、美しいサッカーだと内容もちゃんと認めてくれて、日本人への見方がかなり変わりましたね」

若い選手たちに伝える役割

数々の優勝を経験してきた安藤選手にとって、浦和でのタイトルへの思いは。

「ドイツに移籍する前にリーグで優勝したときは特別

な瞬間でした。また浦和で優勝したいという思いで帰ってきたので、何が何でもチャンピオンになりたいと思いますが、浦和で戦ってみて、優勝を目指すチームとしてはまだまだ厳しさの部分などが足りないと思いました。そこは自分が伝えていかなければと思っています」

今節は、どんな戦いをしたいですか。

「チーム一丸となって、球際で厳しく戦って、自分たちのサッカーを出していきたいです。きれいにやるだけではなく、戦うところをしっかりとピッチで出していきたいと思います」

サポーターに贈りたいゴール

「沖縄で(INAC神戸レオネッサ戦)、昔と同じチャントを歌ってくれて、すごく嬉しかったです。ファン・サポーターの方々に自分の成長したところを見せたいというのも帰ってきた理由のひとつなので、喜んでもらえるプレーをしたいです。父の日のプレゼントになるように、ゴールも狙っていきます」

